

今回の活動を通して自分自身の意識や行動の変化・成長した点をお聞かせください。

周りの人への意識が変化しました。

今回の活動は、私にとって人生で最も本気で取り組んだチーム作業でした。これまでもチームで活動することはあり、もちろん本気で取り組んできましたが、今回の活動ほどチームメンバーの大切さとその意味に気づいた経験はありませんでした。

私はこれまで主体的に考え行動することを大切に様々な活動に取り組んできました。

例えば、高校時代の一年留学や留学先でのボランティア。学生団体での活動や2週間のカンボジアでのフィールドワーク。複数のワークショップへの参加およびビジネスコンテストへの出場。幸せなことに、これらの活動をご評価いただき、新聞社からの取材を受けることや大使館から感謝状をいただくこと、ビジネスコンテストで表彰していただくなど様々なことができました。これらはほとんどが単独作業でしたが、今回の活動は長期間に渡り、チームで一つの結果を求められる、私にとって初めての経験だったのです。また、本大会は全国大会ということもあり、賞獲得という目標を達成することは非常に困難なものでした。その一つは議論の環境づくりでした。

さらにこれと同じぐらい苦労したエピソードが、大会本番5日前のゼミ内模擬発表でのことです。私たちはそれまで全身全霊を込めて研究してきたため、その自負から自分たちの研究に自信を持っていました。しかし、発表は上手くいかず、私たちの研究成果を1%も伝えることが出来なかったのです。しかし、私たちは絶望していませんでした。自分たちの研究が素晴らしいものであると信じていたからです。本番まで、文字通り寝る間も惜しんで発表準備に取り組みました。そして、本番を迎え、私たちは「もう二度と模擬発表でした悔しい思いはしない」と発表や質疑応答、討論など本番の全てに後悔がないよう全力で取り組みました。その結果、私たちは二つの賞をどちらも受賞することができました。

今回の活動では、ご紹介した二つの苦労以外にも無数の壁がありました。しかし、どんな壁があろうと私たちは目標を達成するために本気でぶつかり合い、想い合うことができました。大会が終わった今、私はチームのメンバー誰か1人でも欠ければ、今回の結果は得られなかったと本気で感じています。今回の活動は、今までチームでの活動の経験に乏しかった私に仲間の大切さを実体験として教えてくれました。この経験はチームとして結果を出すためにはどうすれば良いのか。また、チームでどのような行動をとれば結果に結びつくのかを学ぶ機会となり、自分をまた一步成長させることができました。